科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E01 音楽実技研究Ⅰ（声楽）	桑原　理恵　他	クラス分け	４単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	※				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

各自の特性を活かすことのできる楽曲のレパートリーを増やし、歌唱技術・演奏表現をさらに深め、各自に応じた楽曲を表現豊かに演奏することができる。＊15分のプログラムを構成し演奏する

授業の概要

音楽学科で習得した技術をもとに、各々の学生の適性にあった作品について技術と音楽的内容表現をさらに研究する。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲３・４ （仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
2	各自課題曲１・２ （発声法・ディクション）	発声、発音に留意した歌唱練習をする	発声・発音を中心に指導内容をまとめて反復練習する	10	各自課題曲５・６ （発声法・ディクション）	発声、発音に留意した歌唱練習をする	発声・発音を中心に指導内容をまとめて反復練習する
3	各自課題曲１・２ （歌詞の理解・言葉と旋律）	歌詞を理解し、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	言葉と旋律を中心に指導内容をまとめて反復練習する	11	各自課題曲５・６ （歌詞の理解・言葉と旋律）	歌詞を理解し、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	言葉と旋律を中心に指導内容をまとめて反復練習する
4	各自課題曲１・２ （歌唱表現の検討と工夫）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲５・６ （歌唱表現の検討と工夫）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する
5	各自課題曲１・２ （仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲５・６ （仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
6	各自課題曲３・４ （発声法・ディクション）	発声、発音に留意した歌唱練習をする	発声・発音を中心に指導内容をまとめて反復練習する	14	実技試験に向けて （作品考察）	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
7	各自課題曲３・４ （歌詞の理解・言葉と旋律）	歌詞を理解し、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	言葉と旋律を中心に指導内容をまとめて反復練習する	15	実技試験に向けて （伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる
8	各自課題曲３・４ （歌唱表現の検討と工夫）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修			

教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E01 音楽実技研究Ⅰ（ピアノ）	眞鍋　協子　他	クラス分け	４単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

学内演奏（公開）を経験することにより、演奏技術を更に向上させる。演奏家・教育者・ピアノ指導者として、卒業後、活動可能となる素養を身に付けることを目標とする。

授業の概要

学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組む。曲目の選定は自由とし、個人の適正に応じた任意の楽曲に取り組む。４年次までに修得した楽曲分析および技術を反映させながら独自の演奏を完成させる

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	研究テーマを決める① 研究内容についての時代背景を学ぶ	テーマを探す	指示された事柄について練習を進める	9	音楽的表現の追求② 奏法を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ
2	研究テーマを決める② 研究内容についての様式を中心に学ぶ	テーマとなる作品を聴く	時代背景・様式を復習する	10	音楽的表現の追求③ 強弱を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	読譜の徹底
3	楽曲の読譜と分析① 形式を中心に学修する	読譜を中心とする練習	形式を調べる	11	音楽的表現の追求④ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求
4	楽曲の読譜と分析② 和声を中心に学修する	和声感を身につける	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
5	研究テーマ曲の読譜 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和
6	研究テーマ曲の分析① 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析	14	公開演奏の心構えと準備・ホールの響きを踏まえた表現法	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
7	研究テーマ曲の分析② 奏法を中心に学修する	奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	公開演奏の心構えと準備・総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
8	音楽的表現の追求① 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習	備考 ※ピアノ専攻必修			

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E01 音楽実技研究Ⅰ(管弦打)	馬込　勇・柏尾　剛徳　他	クラス分け	４単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	必修				ＡＢＤＥ

授業のテーマ及び到達目標

よりレベルが高くなることにより、さらに練習曲やオーケストラスタディ、古典から近・現代にいたるまで、様々な曲を用いて、奏法上の技能・表現力を確実に身に付けることができる。

授業の概要

専門性をさらに磨くべく、密度の濃い個人レッスンを受けることにより自主性や自立心を養い、目的をもって探求し、より深く学修をする。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	前期の学習計画および内容の確認　他	事前に考えておく	学修内容の確認と復習	9	専攻実技研究⑧(ソロ曲とオーケストラスタディ〔交響曲〕)	研究および練習	学修内容の復習
2	専攻実技研究①（学内演奏会用ソロ曲の選曲等）	研究および練習	学修内容の復習	10	専攻実技研究⑨（学内演奏会用ソロ曲の注意点　他）	研究および練習	学修内容の復習
3	専攻実技研究②（ソロ曲のアナリーゼ　他）	研究および練習	学修内容の復習	11	専攻実技研究⑩（学内演奏会用ソロ曲の粗通し　他）	研究および練習	学修内容の復習
4	専攻実技研究③（ソロ曲の音楽表現法　他）	研究および練習	学修内容の復習	12	専攻実技研究⑩（学内演奏会用ソロ曲の音楽表現　他）	研究および練習	学修内容の復習
5	専攻実技研究④（ソロ曲とテクニカルエチュード　他）	研究および練習	学修内容の復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①（粗通しをし、流れと音楽的表現の確認　他　※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする
6	専攻実技研究⑤（ソロ曲とメロディアスエチュード　他）	研究および練習	学修内容の復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②（ピアニストとのバランス、縦の確認　他　※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする
7	専攻実技研究⑥(ソロ曲とオーケストラスタディ〔ミサ曲〕)	研究および練習	学修内容の復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③（学内演奏会を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	修了試験の総括と反省
8	専攻実技研究⑦(ソロ曲とオーケストラスタディ〔管弦楽曲〕)	研究および練習	学修内容の復習				

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする		前期実技試験/学内演奏会	100%	演奏内容（表現力・ピッチ・テンポ感等）
参考書・参考資料等					

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E02 音楽実技研究Ⅱ（声楽）	桑原　理恵　他	クラス分け	４単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	※				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

各自の特性を活かすことのできる楽曲のレパートリーをさらに増やし、歌唱技術・演奏表現をさらに深める。各自に応じた楽曲の背景などを探求し、表現豊かな演奏ができる。
＊15分のプログラムを構成し演奏する

授業の概要

音楽実技研究Ⅰで習得した技術をもとに、各々の学生の適性にあった作品について技術と音楽的内容表現をさらに深く研究する。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	各自の課題確認と目標設定	シラバスを読み授業の概要を確認する	学修計画を立てる	9	各自課題曲９・１０ （仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
2	各自課題曲７・８ （発声法・ディクション）	発声、発音に留意した歌唱練習をする	発声・発音を中心に指導内容をまとめて反復練習する	10	各自課題曲１１・１２ （発声法・ディクション）	発声、発音に留意した歌唱練習をする	発声・発音を中心に指導内容をまとめて反復練習する
3	各自課題曲７・８ （歌詞の理解・言葉と旋律）	歌詞を理解し、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	言葉と旋律を中心に指導内容をまとめて反復練習する	11	各自課題曲１１・１２ （歌詞の理解・言葉と旋律）	歌詞を理解し、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	言葉と旋律を中心に指導内容をまとめて反復練習する
4	各自課題曲７・８ （歌唱表現の検討と工夫）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する	12	各自課題曲１１・１２ （歌唱表現の検討と工夫）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する
5	各自課題曲７・８ （仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する	13	各自課題曲１１・１２ （仕上げ）	豊かな響きで内容を表現できるように練習する	録音した自分の演奏を聴き課題を確認する
6	各自課題曲９・１０ （発声法・ディクション）	発声、発音に留意した歌唱練習をする	発声・発音を中心に指導内容をまとめて反復練習する	14	実技試験に向けて （作品考察）	作品の内容について考察する	作品の内容を理解しどう表現したいかをまとめる
7	各自課題曲９・１０ （歌詞の理解・言葉と旋律）	歌詞を理解し、言葉の抑揚を旋律にのせて歌う	言葉と旋律を中心に指導内容をまとめて反復練習する	15	実技試験に向けて （伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	伴奏者と共に歌唱練習を行う	伴奏を含めてどう表現したいかをまとめる
8	各自課題曲９・１０ （歌唱表現の検討と工夫）	言葉の意味や歌詞の内容を表現できるように練習する	歌詞を繰返し読み、表現について考察する	備考 ※声楽コース必修			

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現
参考書・参考資料等					

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E02 音楽実技研究Ⅱ（ピアノ）	眞鍋　協子　他	クラス分け	4単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

修了試験（公開）を経験することにより、演奏技術を更に向上させる。演奏家・教育者・ピアノ指導者として、卒業後、活動可能となる素養を身につけることを目標とする。

授業の概要

学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組む。曲目の選定は自由とし、個人の適性に応じた任意の楽曲に取り組む。これまでに修得した楽曲分析および技術を反映させながら独自の演奏を完成させる。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	研究テーマの楽曲を学ぶ① 研究内容についての時代背景を学ぶ	テーマとなる楽曲について調べる	指示された事柄について練習を進める	9	音楽的表現の追求② 強弱を中心に学修する	運指および奏法の予習	奏法の掘り下げ
2	研究テーマの楽曲を学ぶ② 研究内容についての様式を中心に学ぶ	テーマとなる作品を聴く	時代背景・様式を復習する	10	音楽的表現の追求③ 和声を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	読譜の徹底
3	楽曲の読譜と分析① 形式を中心に学修する	読譜を中心とする練習	形式を調べる	11	音楽的表現の追求④ 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求
4	楽曲の読譜と分析② 和声を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
5	研究テーマ曲の読譜 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和
6	研究テーマ曲の分析① 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析	14	公開演奏の心構えと準備・ホールの響きを踏まえた表現法	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
7	研究テーマ曲の分析② 奏法を中心に学修する	奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	公開演奏の心構えと準備・総括	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
8	音楽的表現の追求① 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習	備考 ※ピアノ専攻必修			

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E02 音楽実技研究Ⅱ(管弦打)	馬込　勇・柏尾　剛徳　他	クラス分け	4単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

よりレベルが高くなることにより、さらに練習曲やオーケストラスタディ、古典から近・現代にいたるまで、様々な曲を用いて、奏法上の技能・表現力を確実に身に付けることができる。

授業の概要

専門性をさらに磨くべく、密度の濃い個人レッスンを受けることにより自主性や自立心を養い、目的をもって探求し、より深く学修をする。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	前期の反省と後期の計画について　他	前期の反省と後期の展望を考えておく	学修内容の確認と復習	9	専攻実技研究⑧(ソロ曲とオーケストラスタディ〔交響曲〕)	研究および練習	学修内容の復習
2	専攻実技研究①（修了試験用ソロ曲の選曲等）	候補曲を考えておく	学修内容の復習	10	専攻実技研究⑨（学内演奏会用ソロ曲の注意点　他）	研究および練習	学修内容の復習
3	専攻実技研究②（ソロ曲のアナリーゼ他）	研究および練習	学修内容の復習	11	専攻実技研究⑩（学内演奏会用ソロ曲の粗通し　他）	研究および練習	学修内容の復習
4	専攻実技研究③（ソロ曲の音楽表現法他）	研究および練習	学修内容の復習	12	専攻実技研究⑩（学内演奏会用ソロ曲の音楽表現　他）	研究および練習	学修内容の復習
5	専攻実技研究④（ソロ曲とテクニカルエチュード　他）	研究および練習	学修内容の復習	13	ソロ曲と伴奏合わせ①（粗通しをし、流れと音楽的表現の確認　他　※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	事前に伴奏合わせをしておく	反省を基に伴奏合わせをする
6	専攻実技研究⑤（ソロ曲とメロディアスエチュード　他）	研究および練習	学修内容の復習	14	ソロ曲と伴奏合わせ②（ピアニストとのバランス、縦の確認　他　※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	前のレッスンでの課題を修正する	反省を基に伴奏合わせをする
7	専攻実技研究⑥(ソロ曲とオーケストラスタディ〔ミサ曲〕)	研究および練習	学修内容の復習	15	ソロ曲と伴奏合わせ③（修了試験を想定した通し、ミスをした箇所の確認と対処法他※無伴奏曲の場合は、更に質向上のためのレッスン）	前回の内容に加え、更に音楽性自体も高める	修了試験の総括と反省
8	専攻実技研究⑦(ソロ曲とオーケストラスタディ〔管弦楽曲〕)	研究および練習	学修内容の復習				

教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
後期実技試験/修了演奏会	100%	演奏内容（表現力・ピッチ・テンポ感等）

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E03 音楽演習研究Ⅰ(作曲)	出田　敬三　他	複数	4単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

作曲・編曲の全般に必要な確かな知識と技術をさらに主体的に習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターする。
個性豊かな作品（作曲作品、編曲作品）を制作し、演奏により発表する。
作品を通じて、奏者や聴衆と音楽的コミュニケーションを行うことで、自己の成長と音楽の美しさを追求し、地域社会の音楽文化の発展に寄与する。

授業の概要

1.和声学(和声実習）／2.対位法（パレストリーナスタイル、カノン、フーガまで）／3.管弦楽法(管弦楽、吹奏楽）／4.編曲（クラシック、ポピュラーの楽曲をピアノ、室内楽に編曲し、演奏する）／5.作曲実習（自作曲の制作と試演）

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	専攻科での研究テーマの決定 オーケストレーション課題の選定	自作品の創作、研究テーマの絞り込み	研究テーマに沿った創作、編曲への取り組み	9	自作曲・自編曲研究③ 作品の制作（前半）	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏	課題復習
2	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション①　バロック	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	10	自作曲・自編曲研究④ 作品の制作（後半）	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏	課題復習
3	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション②　古典派	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	11	自作曲・自編曲研究⑤ 作品の制作（まとめ）	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏	課題復習
4	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション③　ロマン派	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	12	自作曲・自編曲研究⑥ 作品のフレーズ、ダイナミクス、アティキュレーションについて	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏・楽譜制作	課題復習
5	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション④　近代	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	13	自作曲・自編曲研究⑦ 実演によるレッスン、楽譜制作	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏・楽譜制作	課題復習
6	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション⑤　現代	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	14	自作曲・自編曲研究総括（実演）① 演奏効果（音響・PA等）の確認	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏・楽譜制作	課題復習
7	自作曲・自編曲研究① 作品のテーマについて	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏	課題復習	15	自作曲・自編曲研究総括（実演）② 演奏の仕上げ	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏・提出作品の浄書	実技試験のための準備
8	自作曲・自編曲研究② 作品の構成について	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏	課題復習				

教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする。
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
前期公開学内演奏会	100%	自作曲の質、表現の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E04 音楽演習研究Ⅱ(作曲)	出田　敬三　他	複数	4単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

作曲・編曲の全般に必要な確かな知識と技術をさらに主体的に習得し、幅広いジャンルの音楽をマスターする。
個性豊かな作品（作曲作品、編曲作品）を制作し、演奏により発表する。
作品を通じて、奏者や聴衆と音楽的コミュニケーションを行うことで、自己の成長と音楽の美しさを追求し、地域社会の音楽文化の発展に寄与する。

授業の概要

1.和声学(和声実習）／2.対位法（パレストリーナスタイル、カノン、フーガまで）／3.管弦楽法(管弦楽、吹奏楽）／4.編曲（クラシック、ポピュラーの楽曲をピアノ、室内楽に編曲し、演奏する）／5.作曲実習（自作曲の制作と試演）

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	卒業研究テーマの決定 オーケストレーション課題の選定	自作品の創作、研究テーマの絞り込み	研究テーマに沿った創作、編曲への取り組み	9	自作曲・自編曲研究③ 作品の制作（前半）	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏	課題復習
2	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション①　バロック	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	10	自作曲・自編曲研究④ 作品の制作（後半）	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏	課題復習
3	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション②　古典派	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	11	自作曲・自編曲研究⑤ 作品の制作（まとめ）	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏	課題復習
4	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション③　ロマン派	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	12	自作曲・自編曲研究⑥ 作品のフレーズ、ダイナミクス、アティキュレーションについて	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏・楽譜制作	課題復習
5	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション④　近代	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	13	自作曲・自編曲研究⑦ 実演によるレッスン、楽譜制作	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏・楽譜制作	課題復習
6	オーケストレーション、管弦楽法とレジストレーション⑤　現代	楽曲アナリーゼ、スコアリーディング他	自作品の創作 課題復習	14	自作曲・自編曲研究総括（実演）① 演奏効果（音響・PA等）の確認	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏・楽譜制作	課題復習
7	自作曲・自編曲研究① 作品のテーマについて	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏	課題復習	15	自作曲・自編曲研究総括（実演）② 演奏の仕上げ	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏・提出作品の浄書	実技試験のための準備
8	自作曲・自編曲研究② 作品の構成について	自作品の創作（作曲・編曲）・演奏	課題復習				

教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定するものとする。
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
後期公開学内演奏会	100%	自作曲の質、表現の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E06 ピアノ実技Ⅰ	眞鍋　協子　他	クラス分け	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修				ＡＢＣＤ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画						
楽曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。ピアノ演奏をとおして多声音楽を学び、専門分野の音楽に役立たせる。専攻の如何を問わず、ピアノ演奏技術を習得する。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	前期の学習計画を立てる 楽曲を選択する	レッスンまでに１曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める	9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	奏法の予習	音色の掘り下げ
	2	楽曲を選択する 選んだ曲の時代背景を学ぶ	多くのピアノ作品を聴く	選択した楽曲の時代背景を復習する	10	課題曲を発展させる① 表現法を中心に学修する	多彩な表現を目指す	表現法を工夫して練習
	3	読譜の徹底① 形式を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	形式を考えて練習	11	課題曲を発展させる② 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求
	4	読譜の徹底② 和声を中心に学修する	和声感を意識して練習	奏法を追求する	12	課題曲の完成度を高める① テンポの設定について	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
授業の概要								
音楽学科で学んだ技術をもとに、幅広いピアノ音楽（伴奏・アンサンブル）にまで通用する演奏技術と音楽性を身に付ける。	5	読譜の徹底③ 運指法を中心に学修する	指使いを検討する	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② ペダリングを中心に学ぶ	音色の追求	楽曲全体の音の調和
	6	読譜の徹底④ 強弱法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	音楽にふさわしい音の強さを探る	14	演奏表現の工夫と暗譜・課題曲の多様な演奏表現の検討	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	作曲家に即して奏法を練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括・演奏の心得と準備	課題曲全ての項目を練習する	楽曲演奏の改善点を探る
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習				

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
参考書・参考資料等			実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E06 ピアノ実技Ⅰ	眞鍋　協子　他	クラス分け	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修				ＡＢＣＤ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画						
	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	前期の学習計画を立てる 楽曲を選択する	レッスンまでに１曲完成させておく	指示された事柄について練習を進める	9	課題曲を分析する③ 奏法・音色を中心に学修する	奏法の予習	音色の掘り下げ
	2	楽曲を選択する 選んだ曲の時代背景を学ぶ	多くのピアノ作品を聴く	選択した楽曲の時代背景を復習する	10	課題曲を発展させる① 表現法を中心に学修する	多彩な表現を目指す	表現法を工夫して練習
	3	読譜の徹底① 形式を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	形式を考えて練習	11	課題曲を発展させる② 音色を中心に学修する	作曲家に即した音色作り	音色の追求
	4	読譜の徹底② 和声を中心に学修する	和声感を意識して練習	奏法を追求する	12	課題曲の完成度を高める① テンポの設定について	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
授業の概要								
	5	読譜の徹底③ 運指法を中心に学修する	指使いを検討する	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② ペダリングを中心に学ぶ	音色の追求	楽曲全体の音の調和
	6	読譜の徹底④ 強弱法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	音楽にふさわしい音の強さを探る	14	演奏表現の工夫と暗譜・課題曲の多様な演奏表現の検討	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
	7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	作曲家に即して奏法を練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括・演奏の心得と準備	課題曲全ての項目を練習する	楽曲演奏の改善点を探る
	8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習				

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
参考書・参考資料等			実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E07 声楽実技Ⅰ	桑原　理恵　他	クラス分け	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修	選択必修			ＡＢＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

発声・発音・呼吸法の技術を確実に身につけ楽曲の内容をよく理解した歌唱表現ができる。＊実技試験では４分以内の楽曲を演奏する

授業の概要

「歌うこと」は音楽のいかなる専門分野においても表現の基礎として重要である。発声・呼吸法・言葉の表現・内容の解釈について深く学ぶ。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する	9	各自課題曲２（楽曲構成・仕上げ）	楽曲構成を理解して豊な響きで歌えるように練習をする	レッスン内容をまとめる
2	各自課題曲１（発声と呼吸法）	息の流れと体の支えを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲３（発声と呼吸法）	息の流れと体の支えを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
3	各自課題曲１（声の響きと旋律）	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲３（声の響きと旋律）	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
4	各自課題曲１（言葉と内容の解釈）	歌詞の内意を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲３（言葉と内容の解釈）	歌詞の内意を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる
5	各自課題曲１（楽曲構成・仕上げ）	楽曲構成を理解して豊な響きで歌えるように練習をする	レッスン内容をまとめる	13	各自課題曲３（楽曲構成・仕上げ）	楽曲構成を理解して豊な響きで歌えるように練習をする	レッスン内容をまとめる
6	各自課題曲２（発声と呼吸法）	息の流れと体の支えを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ１ （作品理解と表現）	作品について考察し豊かな表現ができるように練習する	どのように表現すればよいかまとめる
7	各自課題曲２（声の響きと旋律）	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ２ （伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	伴奏者と共に練習する	伴奏を含めてどのように表現すればよいかまとめる
8	各自課題曲２（言葉と内容の解釈）	歌詞の内意を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる				

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現
参考書・参考資料等					

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E08 声楽実技Ⅱ	桑原　理恵　他	クラス分け	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択必修	選択必修			ＡＢＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

声楽実技Ⅰにひきつづき、発声・発音・呼吸法の技術を確実に身につける。楽曲の内容をよく理解し、自発的な歌唱表現ができる。＊実技試験では４分以内の楽曲を演奏する

授業の概要

「歌うこと」は音楽のいかなる専門分野においても表現の基礎として重要である。各自の専門分野との繋がりも含めて、発声・呼吸法・言葉の表現・内容の解釈・楽曲構成の理解を更に深く学ぶ。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	授業内容の説明・課題曲を決める	シラバスを読み授業の概要を確認する	授業内容、課題曲について確認する	9	各自課題曲５（楽曲構成・仕上げ）	楽曲構成を理解して豊な響きで歌えるように練習をする	レッスン内容をまとめる
2	各自課題曲４（発声と呼吸法）	息の流れと体の支えを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	10	各自課題曲６（発声と呼吸法）	息の流れと体の支えを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
3	各自課題曲４（声の響きと旋律）	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	11	各自課題曲６（声の響きと旋律）	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる
4	各自課題曲４（言葉と内容の解釈）	歌詞の内意を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる	12	各自課題曲６（言葉と内容の解釈）	歌詞の内意を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる
5	各自課題曲４（楽曲構成・仕上げ）	楽曲構成を理解して豊な響きで歌えるように練習をする	レッスン内容をまとめる	13	各自課題曲６（楽曲構成・仕上げ）	楽曲構成を理解して豊な響きで歌えるように練習をする	レッスン内容をまとめる
6	各自課題曲５（発声と呼吸法）	息の流れと体の支えを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	14	実技試験に向けたまとめ１ （作品理解と表現）	作品について考察し豊かな表現ができるように練習する	どのように表現すればよいかまとめる
7	各自課題曲５（声の響きと旋律）	声の響きを意識して練習する	レッスン内容をまとめる	15	実技試験に向けたまとめ２ （伴奏者と共に楽曲の表現を仕上げる）	伴奏者と共に練習する	伴奏を含めてどのように表現すればよいかまとめる
8	各自課題曲５（言葉と内容の解釈）	歌詞の内意を理解し表現できるように練習する	レッスン内容をまとめる				

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		実技試験	100%	正確な発音と音程、曲の表現
参考書・参考資料等					

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E09 器楽実技Ⅰ	実技系教員	クラス分け	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修				ＡＢＤ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画						
専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	前期の反省と確認	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
	2	エチュードの選定（内容の説明　他）	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲E-1	事前練習	学修内容の復習
	3	エチュードE-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲E-2	事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードE-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲E-3（粗通し）	事前練習	学修内容の復習
授業の概要								
原則として、以前経験したことのある楽器について、専門（管弦打楽器や電子オルガン）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。専門と同等レベルのレッスンが行われる。	5	エチュードE-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲E-4（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードE-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲E-5（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードE-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	後期の反省　他
	8	エチュードE-6	事前練習	学修内容の復習				

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する		演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かせているか
参考書・参考資料等			平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	修了要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E10 器楽実技Ⅱ	実技系教員	クラス分け	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択必修				ＡＢＤＥ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画						
専門コース以外の楽器を様々な視点から幅広く学ぶため、または吹奏楽等の経験者が更に経験した楽器についての知識と演奏技術を身に付けることを目標とする。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	前期の反省と確認	事前に準備しておく	次のレッスンへの準備	9	ソロ曲の選定	希望する曲を探しておく	学修内容の復習
	2	エチュードの選定（内容の説明　他）	事前に準備しておく	学修内容の復習	10	ソロ曲G-1	事前練習	学修内容の復習
	3	エチュードG-1	事前練習	学修内容の復習	11	ソロ曲G-2	事前練習	学修内容の復習
	4	エチュードG-2	事前練習	学修内容の復習	12	ソロ曲G-3（粗通し）	事前練習	学修内容の復習
授業の概要								
原則として、以前経験したことのある楽器について、専門（管弦打楽器や電子オルガン）に準ずるほどの実力を持っている者に対し、開講するものとする。専門と同等レベルのレッスンが行われる。	5	エチュードG-3	事前練習	学修内容の復習	13	ソロ曲G-4（テンポとアーティキュレーションの確認）	事前練習	学修内容の復習
	6	エチュードG-4	事前練習	学修内容の復習	14	ソロ曲G-5（音楽的表現を伴った伴奏合わせ）	事前練習	学修内容の復習
	7	エチュードG-5	事前練習	学修内容の復習	15	総まとめ（人前での披露演奏）	事前練習	後期の反省　他
	8	エチュードE-6	事前練習	学修内容の復習				

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	各担当者が適宜選定し、指定する		演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かせているか
参考書・参考資料等			平常点	30%	授業態度・積極的な姿勢

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2N11 オペラ研究Ⅲ	桑原　理恵/セルセ・メディチ	複数	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

オペラの楽譜の読み取り方（言葉・音楽・背景）を習得し、それに則した歌唱表現ができるようになる。
学習した題材は研究発表する。

＊本学附属機関「熊本オペラ芸術協会」主催の演奏会での演奏も研究発表のひとつに含む。

授業の概要

モーツァルトをはじめとするオペラから場面を取り出し、それぞれの声質に合った役のレチタティーヴォ、アリア、アンサンブルを深く研究する。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	授業内容の説明 課題作品の時代背景・登場人物について	シラバスを読み授業の概要を確認する	課題作品についてにまとめる	9	課題曲５・６ （音楽的基礎部分の確認）	台詞を読み、正確に歌唱できるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
2	課題曲１・２ （歌詞の台詞読み・歌唱）	発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題点をまとめる	10	課題曲５・６ （アンサンブルの確認）	相手のパートを意識して正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
3	課題曲１・２ （音楽的基礎部分の確認）	台詞を読み、正確に歌唱できるように練習する	指導内容と課題点をまとめる	11	課題曲１～６ （アンサンブルパートナーの決定）	相手のパートを意識して正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
4	課題曲１・２ （アンサンブルの確認）	相手のパートを意識して正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる	12	課題曲１～６ （役柄の特徴とアンサンブル）	役柄の特徴を考察しパートナーと歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる
5	課題曲３・４ （歌詞の台詞読み・歌唱）	発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題点をまとめる	13	課題曲１～６ （内容表現の考察）	作品の内容表現を考察しパートナーと歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる
6	課題曲３・４ （音楽的基礎部分の確認）	台詞を読み、正確に歌唱できるように練習する	指導内容と課題点をまとめる	14	課題曲１～６ （アンサンブルの仕上げ）	暗譜して表現できるようにパートナーと歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる
7	課題曲３・４ （アンサンブルの確認）	相手のパートを意識して正確に歌えるように練習する	指導内容と課題点をまとめる	15	まとめ （演奏発表と講評）	役柄の所作をイメージしてパートナーと歌唱練習する	演奏録音から自分の課題点をまとめる
8	課題曲５・６ （歌詞の台詞読み・歌唱）	発音練習、台詞・譜読みを行う	指導内容と課題点をまとめる	備考 ※声楽専攻はオペラ研究Ⅳをあわせて履修すること			

教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点（態度・行動観察）	50%	作品の内容と歌唱の予習、授業への取り組み
期末テスト	50%	演技・アンサンブル・音楽的表現

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2N12 オペラ研究Ⅳ	桑原　理恵・大島　尚志・岩本　貴文	複数	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

オペラの楽譜の読み取り方（言葉・音楽・背景）を習得し、それに則した歌唱と演技ができるようになる。
学習した題材は研究発表する。

＊本学附属機関「熊本オペラ芸術協会」主催の演奏会での演奏も研究発表のひとつに含む。

授業の概要

オペラ研究Ⅲで取り組んだ作品の役を演じるために必要な心理的動きに伴う所作を研究し演技力を身につける。また舞台で必要なマナー、コミュニケーションを学ぶ。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	授業内容の説明 課題作品の役柄・作品についての考察	課題曲を練習する	作品の役柄や内容についてまとめる	9	課題曲１～６ （立ち稽古／歌詞からの演技考察）	歌詞を台詞として読みながら演技できるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
2	課題曲１～６ （音楽練習／歌唱による劇の表現）	役柄のキャラクターをイメージして歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる	10	課題曲１～６ （立ち稽古／音楽からの演技考察）	音楽表現と演技について研究する	指導内容と課題点をまとめる
3	課題曲１～６ （音楽練習／譜面から動きを探る）	譜面から役柄の所作を考察して歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる	11	課題曲１～６ （立ち稽古／歌詞と音楽と演技の関係）	音楽と演技とが一体となるように練習する	指導内容と課題点をまとめる
4	課題曲１～６ （音楽練習／動きを意識したアンサンブル）	互いの所作を踏まえた音楽作りをする	指導内容と課題点をまとめる	12	課題曲１～６ （立ち稽古／相手とのコミュニケーションの取り方）	パートナーと演技および所作について整理する	指導内容と課題点をまとめる
5	課題曲１～６ （表現練習／役柄による動きの違い）	役柄の所作を研究する	指導内容と課題点をまとめる	13	課題曲１～６ （立ち稽古／歌唱・演技での対話表現）	パートナーと作品の内容表現を考察し練習する	指導内容と課題点をまとめる
6	課題曲１～６ （表現練習／台詞と動き）	役柄における表現の種類を複数考えてくる	指導内容と課題点をまとめる	14	課題曲１～６（仕上げ）	パートナーと作品の内容表現を考察し練習する	指導内容と課題点をまとめる
7	課題曲１～３ （舞台での基本的な動き・荒立ち稽古）	これまでの学修内容を踏まえて暗譜する	指導内容と課題点をまとめる	15	まとめ （衣裳・道具をつけての舞台発表と講評）	パートナーと作品の内容表現を考察し練習する	演奏録画から自分の課題点をまとめる
8	課題曲４～６ （舞台での基本的な動き・荒立ち稽古）	これまでの学修内容を踏まえて暗譜する	指導内容と課題点をまとめる				

教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点（態度・行動観察）	50%	作品の内容と歌唱の予習、授業への取り組み
期末テスト	50%	演技・アンサンブル・音楽的表現

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2N13 アンサンブル研究Ⅰ（ピアノ）	眞鍋　協子　他	クラス分け	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

楽曲の様式を理解しながら、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。技能と知識、態度を兼ね備えられている。古典派、ロマン派の音楽と比較しながら、近・現代の音楽を把握できる。

授業の概要

学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組む。近・現代の楽曲を通してその特徴を理解し、感性豊かな音楽作りを目指す。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	学習計画を立てる 連弾曲、2台のピアノ曲、またはピアノコンチェルトを選曲する	レッスンまでに曲を見ておく	指示された事柄について練習を進める	9	課題曲を分析する③ 共演者とのコミュニケーションの取り方	共演者と何度も合わせ練習する	奏法の掘り下げ
2	初見視奏①　連弾曲の初見	初見の練習	初見の復習する	10	課題曲を発展させる① 表現法を中心に	楽譜をよく見て強弱をつける	読譜の徹底
3	初見視奏②　１台のピアノを３人で連弾	初見の練習	多くのアンサンブル曲を弾いてみる	11	課題曲を発展させる② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追求	楽曲全体の音の調和
4	連弾・２台ピアノ曲の構成① 和声を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
5	連弾・２台ピアノ曲の構成② 時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和
6	連弾・２台ピアノ曲の構成③ 形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括	課題曲の全ての項目を練習する	楽曲演奏の改善点を探る
8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習	備考 ※ピアノ専攻必修			

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点（行動観察）	20%	授業態度・毎時間の振り返り
期末テスト	80%	楽曲の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2N13 アンサンブル研究Ⅰ（管弦打）	馬込　勇・柏尾　剛徳　他	複数	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

学部生の頃より更にレベルの高い室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができる。

授業の概要

弦楽アンサンブル・木管アンサンブル・金管アンサンブル・打楽器アンサンブルおよび混合アンサンブルに加え、オーケストラスタディ他、専攻する楽器により様々な編成を経験しながら個々の技術向上等を目指していく。授業の最後に演奏会を想定した発表会を行う。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション(授業計画と教材曲の発表)	シラバスを確認	教材曲の研究と練習	9	オーケストラスタディ② （交響曲等の第2楽章）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
2	各楽器の編成によるアンサンブル① （特色研究 ）	教材曲の特色を研究	授業の復習および練習	10	オーケストラスタディ③ （交響曲等の第3楽章）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
3	各楽器の編成によるアンサンブル② （教材曲研究 ）	教材曲に対する内容研究	授業の復習および練習	11	オーケストラスタディ④ （交響曲等の第4楽章）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
4	各楽器の編成によるアンサンブル③ （音楽的研究 ）	教材曲の音楽的研究	授業の復習および練習	12	演奏会を想定した教材曲のまとめ① （流れと注意）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
5	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル①（特色研究）	教材曲の特色を研究	授業の復習および練習	13	演奏会を想定した教材曲のまとめ② （ポイントと粗通し）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
6	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル②（教材曲研究）	教材曲に対する内容研究	授業の復習および練習	14	演奏会を想定した発表会のリハーサル	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
7	弦楽・木管・金管・打楽器によるアンサンブル③（音楽的研究）	教材曲の音楽的研究	授業の復習および練習	15	演奏会を想定した教材曲の発表会	総合的練習と発表会の準備	総括と反省
8	オーケストラスタディ①（交響曲等の第1楽章）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	備考 ※管弦打楽コース必修			

教科書・テキスト等	担当教員より指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	30%	授業態度・積極的姿勢等
課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2N14 アンサンブル研究Ⅱ	眞鍋　協子　他	クラス分け	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

学修に対する情熱と意欲を持ち作品に取り組める。ピアノ協奏曲の楽曲を通してその特徴を理解し、感性豊かな音楽作りを目指す。様々な楽器とのアンサンブルを楽しむことができる。

授業の概要

ピアノ２台のアンサンブルだけでなく、多くの種類の楽器と合わせることで、深い内容と確かな技術および表現力を養うことを目標とする。楽曲の様式を理解しながら、技能と知識、態度を兼ね備えられている。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	学習計画を立てる。連弾曲、2台のピアノ曲、またはピアノコンチェルトを選曲する。	レッスンまでに曲を見ておく	指示された事柄について練習を進める	9	課題曲を分析する③ 共演者とのコミュニケーションの取り方	共演者と何度も合わせ練習する	奏法の掘り下げ
2	アンサンプル作品の決定した曲の分析	初見の練習	近・現代のの時代背景を復習する	10	課題曲を発展させる① 表現法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	読譜の徹底
3	決定した楽曲の時代背景を中心に学ぶ	指示された内容まで到達するよう練習する	近・現代の音階を考えて練習	11	課題曲を発展させる② 合図の出し方、呼吸の合わせ方	呼吸合わせを追求	楽曲全体の音の調和
4	ピアノコンチェルト・２台ピアノ曲の構成①　和声を中心に学修する	和声感を身に着ける	奏法の追求	12	課題曲の完成度を高める① 楽曲全体の構成を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	指示された事柄について練習を進める
5	ピアノコンチェルト・２台ピアノ曲の構成②　時代背景・様式を中心に学修する	課題曲の様式を調べる	指示された事柄について練習を進める	13	課題曲の完成度を高める② 楽曲全体の音色を中心に学修する	音色の追求	楽曲全体の音の調和
6	ピアノコンチェルト・２台ピアノ曲の構成③　形式を中心に学修する	指示された内容まで到達するよう練習する	楽曲分析	14	課題曲の完成度を高める③ 表現の掘り下げ	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
7	課題曲を分析する① 奏法を中心に学修する	奏法を作曲家に即して練習	指示された事柄について練習を進める	15	総括	課題曲の全ての項目を練習する	楽曲演奏の改善点を探る
8	課題曲を分析する② 和声を中心に学修する	和声を調べる	和声を意識して練習				

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
実技試験は複数の教員で採点し評価する	100%	課題曲の完成度

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2N14 アンサンブル研究Ⅱ(管弦打)	馬込　勇・柏尾　剛徳　他	複数	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

学部生の頃よりレベルの高い室内楽および管弦楽等、様々な編成によるアンサンブルを経験し、演奏に対する常識や慣習を学ぶことができる。

授業の概要

後期は基本的に「華麗なる音楽の祭典」（本学定期演奏会）に向けての練習を兼ね、管弦楽（オーケストラスタディ）中心に授業を進めていく。演奏会の本番に向けて真摯に取り組むことも内容に含まれる。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	演奏会の曲目発表および準備その他	シラバスを確認	教材曲の研究と練習	9	華麗なる音楽の祭典リハーサル（本番を想定し、改善点を見出すこと等）	リハーサルへの準備と練習	リハーサル後の反省と練習
2	演奏会用プログラム①（楽曲分析等）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	10	華麗なる音楽の祭典　本番（これまでの成果を存分に発揮すること等）	本番に向けての準備と練習	本番後の反省
3	演奏会用プログラム②（曲想・流れ等）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	11	著名な管弦楽曲もしくは交響曲①（第1楽章）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
4	演奏会用プログラム③（技術的問題点等）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	12	著名な管弦楽曲もしくは交響曲②（第2楽章）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
5	演奏会用プログラム④（音楽表現の工夫等）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	13	著名な管弦楽曲もしくは交響曲③（第3楽章）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
6	パートおよびセクション①（更に細分化したアンサンブル）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	14	著名な管弦楽曲もしくは交響曲④（第4楽章）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習
7	パートおよびセクション②（①の改善点をふまえた内容）	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	15	演奏会を想定した発表会	発表会の準備他	総括と反省
8	学生ソリストとの合わせ	教材曲の研究と練習	授業の復習および練習	備考 ※管弦打楽コース必修			

教科書・テキスト等	担当教員より指示
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
平常点	30%	授業態度・積極的姿勢等
課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E15 合唱研究Ⅰ	菊村　隆史	単独	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修	選択必修			ＡＢＣ

授業のテーマ及び到達目標

古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。

授業の概要

コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音楽感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	ガイダンス 授業計画発表・学修内容の説明・パート編成分け	シラバスを確認	計画を立てる
2	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習①呼気のコントロールと発声のメカニズムについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
3	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習②安定感のあるブレスに立脚した声について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
4	合唱（コーラス・アンサンブル）のための基本的な発声法の修得とその実習③様々なパッセージを歌唱し自らの声と音域について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
5	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習① 移動ド唱法とソルミゼーションその1	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
6	アンサンブル・トレーニングの修得とその実習② 移動ド唱法とソルミゼーションその２	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
7	アンサンブル・テクニックの修得とその応用①単旋律聖歌、オルガヌム等を用いて完全４度・完全６度の響きを味わい音程感覚を養う。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
8	アンサンブル・テクニックの修得とその応用②カノン、オスティナート、２～４声の楽曲を用いて様々なコーラス・アンサンブルを研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
9	楽曲演奏と研究① 課題楽曲Ａの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
10	楽曲演奏と研究② 課題楽曲Ａの実習、発語（ディクション）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
11	楽曲演奏と研究③ 課題楽曲Ｂの実習、アーティキュレーションについて研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
12	楽曲演奏と研究④ 課題楽曲Ｂの実習、発語（ディクション）について研究する。	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
13	まとめ グループ別研究発表と考察①	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
14	まとめ グループ別研究発表と考察②	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
15	前期の総括	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習

教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または、個人購入して使用する。詳細は授業時に指示する。
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
演奏	50%	学修課題を踏まえ、演奏に活かせているか
課題／レポート	30%	合唱曲・アンサンブルについての考察
平常点	20%	授業態度、積極的な取り組み

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E16 合唱研究Ⅱ	菊村隆史・桑原理恵・村橋和子	複数	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択必修	選択必修			ＡＢＣ

授業のテーマ及び到達目標

コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音楽感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組むことができる。
古典から近現代までのあらゆる合唱作品に触れながら「声」によるアンサンブル表現の多様性と可能性を体感するとともに、合唱作品の演奏に際して必要となる基本的なテクニックを習得することを目標とし、芸術としての合唱音楽の本質的な魅力に迫ることができる。

授業の概要

コダーイ・システムの概念に基づき、合唱音楽の演奏にふさわしい清潔な声と音楽感覚を養いながら様々な合唱作品に取り組む

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	ガイダンス 作品演奏にふさわしい発声、発語に留意しながら和声的感覚を養うトレーニングに取り組む	前期の学修内容を復習	計画を立てる
2	楽曲演奏と実習① 組曲第１曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
3	楽曲演奏と実習② 組曲第２曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
4	楽曲演奏と実習③ 組曲第３曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
5	楽曲演奏と実習④ 組曲第４曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
6	楽曲演奏と実習⑤ 組曲第５曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
7	楽曲演奏と実習⑥ 組曲第６曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
8	楽曲演奏と実習⑦ 組曲第７曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
9	楽曲演奏と実習⑧ 組曲第８曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
10	楽曲演奏と実習⑨ 組曲第９曲の演奏	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
11	楽曲演奏と研究⑩ 全曲通し練習その１	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
12	楽曲演奏と研究⑪ 全曲通し練習その２	演習楽曲の研究と練習	課題に基づき復習・反復練習
13	リハーサル	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習
14	演奏会	既習事項のまとめと練習	課題に基づき復習・反復練習
15	反省と総括	既習事項のまとめと練習	合唱音楽についてまとめる

教科書・テキスト等	必要に応じて配付、または、個人購入して使用する。詳細は授業時に指示する。
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
課題演奏	50%	演奏に学修課題を活かせている
課題／レポート	30%	合唱曲・アンサンブルについての考察
平常点	20%	授業態度、積極的な取り組み

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E17 合奏研究Ⅰ	馬込　勇・柏尾　剛徳	クラス分け	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	必修	選択必修			ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画						
指揮者がいる場合は指揮者、いない場合はコンサートマスター等を通じてコミュニケーションやチームワークを大事にしながら、より深い音楽を目指す。更に演奏会を企画・運営をする場合もあり、出演するすることと同時に裏方の経験もしながら学び、将来的に指導者としての活動やプロデュースする力も身に付けていくことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	オリエンテーション（授業計画等）	シラバスを確認	次の授業に備える	9	定期演奏会プログラム①（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	2	基礎合奏 他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	10	定期演奏会プログラム②（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	合奏における注意点　他	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	11	定期演奏会プログラム③（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	吹奏楽コンクール課題曲Ⅰ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅠ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	12	定期演奏会プログラム④（毎年異なるので、当該年でのプログラムから2曲程度）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
授業の概要								
アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。より専門性の高い内容で授業を行う。	5	吹奏楽コンクール課題曲Ⅱ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅡ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	13	総リハーサル（本番を想定し、緊張感をもって臨む）	プログラム全曲について、注意すべき点をチェックする	注意や指摘されたところの反復練習
	6	吹奏楽コンクール課題曲Ⅲ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅢ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	14	定期演奏会（これまでの内容を演奏会に活かす）	本番に備えての準備他	本番を終えての反省点をまとめる
	7	吹奏楽コンクール課題曲Ⅳ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅣ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	15	総括と反省会	反省点をまとめて準備しておく	前期で学んだことの確認と後期への展望を考える
	8	吹奏楽コンクール課題曲Ⅴ（毎年発表される全日本吹奏楽コンクール課題曲のⅤ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	備考 ※専修免許取得のための8単位必修の中の一つとなる			

教科書・テキスト等	各担当者により指示	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
			平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
			課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす
参考書・参考資料等					

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E18 合奏研究Ⅱ	馬込　勇・柏尾　剛徳　他	クラス分け	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	必修	選択必修			ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画						
前期の経験により得たことを活かし、吹奏楽の更なる研究、、演奏者・指導者としての両方の視点で授業に参加し、より深く学んでいくこと、将来的に指導者を目指すものに対して適応力および対応力をも養うことができる。	回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
	1	前期の復習（前期に学んだことの復習および確認）	前期で学んだことを今一度復習しておく	次の授業に備える	9	基本的奏法の修得とその応用⑧（各楽器・パートそれぞれの役割について）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	2	基本的奏法の修得とその応用①（教材となる曲の発表とその音出し）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	10	基本的奏法の修得とその応用⑨（様々な楽器の特色と奏法）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	3	基本的奏法の修得とその応用②（教材曲の演奏と分析）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	11	基本的奏法の修得とその応用⑩（音楽的表現における音色の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	4	基本的奏法の修得とその応用③（リズム・音程のトレーニング）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	12	基本的奏法の修得とその応用⑪（更なる表現方法の研究）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
授業の概要								
アンサンブル等、小編成や室内楽を大きくした大合奏を基本とする。より専門性の高い内容で授業を行う。	5	基本的奏法の修得とその応用④（リズム・音程のトレーニングを基に発想を自由に転換）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	13	まとめ①（教材楽曲を通しての確認と応用①）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	6	基本的奏法の修得とその応用⑤（独奏では経験できない音楽体験をする）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	14	まとめ②（教材楽曲を通しての確認と応用②）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習
	7	基本的奏法の修得とその応用⑥（アンサンブルを通して曲の表現方法を学ぶ）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	15	まとめ③（教材楽曲の発表会〔ミニコンサート〕）	発表会への準備等	授業の総括と反省
	8	基本的奏法の修得とその応用⑦（合奏というジャンルを幅広く理解する）	教材となっている楽曲の研究と練習	注意や指摘されたところの反復練習	備考 ※専修免許取得のための8単位必修の中の一つとなる			

教科書・テキスト等	各担当者により指示	成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
			平常点	30%	授業態度と積極的姿勢
			課題演奏	70%	学修課題を理解し、演奏に活かす
参考書・参考資料等					

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E19 伴奏法研究Ⅰ	眞鍋　協子	単独	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

様々なジャンルの曲を経験することによって、様式感に合った高度な伴奏技術を身に着けることを目標とする。

授業の概要

音楽学部で修得した技術をさらに発展させる。器楽曲、声楽曲におけるピアノ伴奏の方法や役割を学ぶ。各楽器の役割とアンサンブル方法を認識する。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション・伴奏の意義と授業計画	伴奏曲を初見で弾いてみる	指示された事柄について練習を進める	9	シューベルトの歌曲③ 和声を中心にメロディとの調和を学修する	奏法の予習	音色の掘り下げ
2	伴奏者の役割とは何か 伴奏者の映像を見たり、音楽を聴いてみる	多くのピアノ伴奏を聴く	選択した楽曲の時代背景を予習する	10	シューベルトの歌曲④ 表現法を中心にメロディとの調和を学修する	多彩な表現を目指す	表現法を工夫して練習
3	モーツァルトの歌曲① 言葉と音楽について学ぶ	モーツァルト歌曲を聴く	言葉を考えて練習	11	日本の歌曲① 音色を中心に学修する	フレーズ感について学ぶ	指示された事柄について練習を進める
4	モーツァルトの歌曲② 様式を中心に学修する	和声感を意識して練習	指示された事柄について練習を進める	12	日本の歌曲② テンポの設定について	呼吸の仕方	呼吸の合わせ方
5	モーツァルトの歌曲③ 運指法を中心に学修する	指使いを検討する	奏法を追求する	13	日本の歌曲③ ペダリングを中心に学ぶ	音色の追求	楽曲全体の音の調和
6	モーツァルトの歌曲④ 強弱法を中心に学修する	楽譜をよく見て強弱をつける	音楽にふさわしい音の強さを探る	14	共演者との実習① 表現者としてコミュニケーションの取り方	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
7	シューベルトの歌曲① 奏法を中心に学修する	作曲家に即して奏法を練習	指示された事柄について練習を深める	15	共演者との実習② 共演者との総合的なバランスの取り方について	課題曲全ての項目を練習する	楽曲演奏の改善点を探る
8	シューベルトの歌曲② 和声を中心に学修する	相手を聴くことの意義と重要性を考える	バランスを意識して練習				

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
期末試験	60%	楽曲の完成度
平常点（行動観察）	20%	課題曲の完成度
毎時間の振り返り	20%	事前・事後学修の成果

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2E20 伴奏法研究Ⅱ	眞鍋　協子	単独	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

様々なジャンルの曲を経験することによって、様式感に合った高度な伴奏技術を身に着ける。伴奏法を学ぶことにより、自分自身の演奏をより広く表現力のあるものにしていくことを目標とする。

授業の概要

音楽学部で修得した技術をさらに発展させる。器楽曲、声楽曲におけるピアノ伴奏の方法や役割を学ぶ。各楽器に対するピアノの役割とアンサンブル方法を追求する。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	オリエンテーション・伴奏の意義と授業計画	伴奏曲を初見で弾いてみる	指示された事柄について練習を進める	9	弦楽器とピアノの作品③ 奏法・音色を中心に学修する	奏法の予習	音色の掘り下げ
2	伴奏者の役割とは何か 伴奏者の映像を見たり、音楽を聴いてみる	器楽曲のピアノ伴奏を聴く	選択した楽曲の時代背景を予習する	10	弦楽器とピアノの作品④ 表現法を中心に学修する	多彩な表現を目指す	表現法を工夫して練習
3	木管楽器とピアノの作品① 時代背景を知る	モーツァルトの楽曲を聴く	言葉を考えて練習	11	課題曲の完成① 呼吸の合わせ方を中心に学ぶ	呼吸の仕方	呼吸の合わせ方
4	木管楽器とピアノの作品② 様式を中心に合わせ方を学ぶ	和声感を意識して練習	指示された事柄について練習を進める	12	課題曲の完成② フレーズ感について学ぶ	テンポの設定	指示された事柄について練習を進める
5	木管楽器とピアノの作品③ 運指法を中心にフレーズを意識する	指使いを検討する	奏法を追求する	13	課題曲の完成③ 音色の追求	ペダリングを練習	楽曲全体の音の調和
6	木管楽器とピアノの作品④ 強弱を中心に表現法を学ぶ	楽譜をよく見て強弱をつける	音楽にふさわしい音の強さを探る	14	共演者との実習・表現者としてコミュニケーションの取り方	表現法を工夫して練習	指示された事柄について練習を進める
7	弦楽器とピアノの作品① 奏法を中心に音色を聴く	作曲家に即して奏法を練習	指示された事柄について練習を深める	15	まとめ・共演者との実習。共演者との総合的なバランスの取り方について	課題曲の全ての項目を練習	楽曲演奏の改善点を探る
8	弦楽器とピアノの作品② 和声を中心に調和を学ぶ	相手を聴くことの意義と重要性を考える	バランスを意識して練習				

教科書・テキスト等	各担当教員が推薦・指定する楽譜
参考書・参考資料等	

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
期末試験	50%	楽曲の完成度
毎時間の振り返り	30%	事前・事後学修の成果
平常点（行動観察）	20%	授業態度・行動観察

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽史特殊講義Ⅰ	木村　博子	単独	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修	選択必修			ＡＢＣＥ

授業のテーマ及び到達目標

バロック音楽の声楽・器楽の様式を学ぶ。クラシックの基礎であるバロックの形式や書法を身につけ、より深い音楽表現ができるようになる。

授業の概要

まず声楽様式（レチタティーヴォ、ダ・カーポ・アリア、オペラ、カンタータ）、器楽様式（フーガ、組曲、コンチェルト）について学び、それらの総合として、バッハのカンタータとブランデンブルグ協奏曲を学習する。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	導入：バロック音楽の概要	シラバスを読む	プリントをまとめる	9	器楽形式：組曲	組曲について調べる	フランス組曲第5番についてまとめる。
2	声楽形式：歌（アリア）と語り（レチタティーヴォ）	ヘンデルの《Ombra mai fu》を歌う。	プリントをまとめる	10	器楽形式：コンチェルト	バロックコンチェルトについて調べる。	プリントをまとめる
3	声楽形式：モノディ	《Amarilli mia bella》を歌う	プリントをまとめる	11	カンタータ：J.S.Bachのカンタータ147番①	カンタータ：J.S.Bachのカンタータ147番を聴く	コラールについて調べる
4	声楽形式：ダ・カーポ・アリア	《Sento nel core》を歌う	プリントをまとめる	12	カンタータ：J.S.Bachのカンタータ147番②	教会カンタータについて調べる	プリントをまとめる
5	声楽形式：オペラ	グルック《オルフェオ》を観る	プリントをまとめる	13	ブランデンブルグコンチェルト第5番①	ブランデンブルグコンチェルト全曲を聴く	プリントをまとめる
6	声楽形式：カンタータ	カンタータについて調べる	プリントをまとめる	14	ブランデンブルグコンチェルト第5番②	チェンバロについて調べる	授業内容の復習をする
7	器楽形式：通奏低音	通奏低音について調べる	プリントをまとめる	15	まとめ：バロック時代の音楽形式	これまでの内容を振り返る	レポートをまとめる
8	器楽形式：フーガ	フーガについて調べる	Bach:Sinfonia No.1を分析する				

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等					
参考書・参考資料等					

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
音楽史特殊講義Ⅱ	木村　博子	単独	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択必修	選択必修			ＡＢＣＥ

授業のテーマ及び到達目標

近代フランス音楽を学ぶ。バロック以降の古典主義的傾向がドイツ的ロマンティシズムを経て印象主義に至る音楽史の流れを理解し、現代との接点を見出すことを目標とする。

授業の概要

19世紀以降、パリはヨーロッパの音楽の中心であった。多くの外国人が集い、多様な音楽を受け入れたこの都市で発展した音楽をジャンル別に見ていく。激動の時代背景とその思潮について、また現代音楽との関わりについても理解を深める。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	導入：フランス音楽の歴史	シラバスを読む	授業の復習	9	19世紀のバレエと美術	『ジゼル』を視聴する	プリントをまとめる
2	クラヴサン音楽について	ヴェルサイユ楽派について調べる	F.クープランを聴く	10	ドビュッシー	ドビュッシーの生涯について調べる	ドビュッシーの音楽についてまとめる
3	フランス歌曲①～フォーレ	フォーレの歌曲を聴く	フォーレの生涯についてまとめる	11	サティ	サティの作品を聴く	サティについてまとめる
4	フランス歌曲②～デュパルク、ショーソン	デュパルク、ショーソンの歌曲を聴く	デュパルク、ショーソンの生涯をまとめる	12	ラヴェル	ラヴェルの生涯をまとめる	授業の復習
5	フランス歌曲③～ドビュッシー、ラヴェル	ドビュッシーの歌曲を聴く	ドビュッシーとラヴェルの生涯をまとめる	13	バレエ・リュスとストラヴィンスキー	バレエ・リュスについて調べる	『春の祭典』全曲を聴く
6	グランド・オペラ～グノーの『ファウスト』	『ファウスト』の荒筋を調べる	『ファウスト』全曲を視聴する。	14	新古典主義と６人組	６人組について調べる	授業の復習
7	ベルリオーズ：『幻想交響曲』	『幻想交響曲』を聴く	プリントをまとめる	15	まとめ：フランス音楽と現代	これまでの内容を振り返る	レポートをまとめる
8	サロンの音楽～ショパンとリスト	パリのサロン文化について調べる	プリントをまとめる				

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	プリント配布		平常点	20%	事前事後学修、授業への参加度
			課題	30%	文章形式、内容
参考書・参考資料等	フランス音楽史(春秋社),新西洋音楽史(下)（音楽之友社）		期末レポート	50%	論述の正確さ、オリジナリティ

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2N27 歌曲研究Ⅲ（ドイツ歌曲）	白川　深雪	単独	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択				ＡＢＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

ドイツ語の発音とリズムを習得し、詩の内容を深く理解した上で流暢に詩を朗読することができる。
言葉（語感）を活かし詩の内容を表現豊かに歌唱することができる。

授業の概要

ドイツ歌曲における唱法を発音・詩の持つ意味がどのように絡みあっているか、また伴奏と歌とのアンサンブルにも重点をおきながら表現法を探っていく。作曲者・ことば・背景についても深く研究する。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	授業内容の説明およびドイツ歌曲の歴史	シラバスを読み授業の概要を確認する	課題曲の作曲家について調べる	9	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題１ （発音練習・歌唱法）	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題点をまとめる
2	ドイツ語の発音と詩について	教科書等の発音表をみて発音練習する	発音の仕方をまとめる	10	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題１ （詩の朗読と内容研究）	詩を朗読し歌詞の内容を考察する	指導内容と課題点をまとめる
3	古典派作曲家のドイツ歌曲課題１ （発音練習・歌唱法）	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題点をまとめる	11	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題１ （仕上げ）	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる
4	古典派作曲家のドイツ歌曲課題１ （詩の朗読と内容研究）	詩を朗読し歌詞の内容を考察する	指導内容と課題点をまとめる	12	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題２ （発音練習・歌唱法）	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題点をまとめる
5	古典派作曲家のドイツ歌曲課題１ （仕上げ）	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる	13	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題２ （詩の朗読と内容研究）	詩を朗読し歌詞の内容を考察する	指導内容と課題点をまとめる
6	古典派作曲家のドイツ歌曲課題２ （発音練習・歌唱法）	課題曲の歌詞の発音練習と歌唱練習をする	指導内容と課題点をまとめる	14	ロマン派作曲家のドイツ歌曲課題２ （仕上げ）	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる
7	古典派作曲家のドイツ歌曲課題２ （詩の朗読と内容研究）	詩を朗読し歌詞の内容を考察する	指導内容と課題点をまとめる	15	古典派・ロマン派の課題曲から各１曲演奏 演奏曲の考察発表	演奏曲についての考察をまとめる	演奏録音から自分の課題点をまとめる
8	古典派作曲家のドイツ歌曲課題２ （仕上げ）	作品の演奏スタイルを考察し歌唱練習する	指導内容と課題点をまとめる				

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に指定		平常点（態度・行動観察）	50%	詩の朗読や内容の予習、授業への取り組み
参考書・参考資料等			実技試験	50%	ドイツ語の発音・演奏表現の追求と内容考察

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG5M2N28 歌曲研究Ⅳ（日本歌曲）	赤池　優	単独	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標

日本語の語感をもって表現豊かに詩を朗読できる。
日本語の語感を活かし、内容を表現した歌唱ができる。

授業の概要

日本歌曲における唱法を詩のもつ意味と発音が旋律とどう絡み合っているか、また伴奏と歌とのアンサンブルに重点をおきながら表現法を探っていく。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修	回	学修内容	事前学修	事後学修
1	ガイダンス （授業内容の説明及び日本歌曲の歴史）	シラバスを読み、授業の概要を確認する	演習の復習	9	日本歌曲課題３ （発音練習、課題曲の歌唱）	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習
2	日本語の発音と詩について （日本語の発音及び詩の内容を読みとる方法について）	詩の朗読	演習の復習	10	日本歌曲課題３ （詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱）	課題曲の練習	演習の復習
3	日本歌曲課題１ （日本語の語感を捉えた詩の朗読、課題曲の歌唱）	日本語の発音練習・課題曲の練習	演習の復習	11	日本歌曲課題３ （詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ））	課題曲の練習	演習の復習
4	日本歌曲課題１ （詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱）	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習	12	日本歌曲課題４ （発音練習、課題曲の歌唱）	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習
5	日本歌曲課題１ （詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ））	課題曲の練習	演習の復習	13	日本歌曲課題４ （詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱）	課題曲の練習	演習の復習
6	日本歌曲課題２ （発音練習、課題曲の歌唱）	課題曲の練習と作品についての予習	演習の復習	14	日本歌曲課題 （詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ））	課題曲の練習	演習の復習
7	日本歌曲課題２ （詩の朗読と内容研究、課題曲の歌唱）	課題曲の練習	演習の復習	15	まとめ （日本歌曲課題１曲演奏／演奏曲の考察発表）	課題曲の練習	今期学んだことについてまとめる
8	日本歌曲課題２ （詩の朗読と課題曲の歌唱（仕上げ））	課題曲の練習	演習の復習				

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	授業時に指示する		実技試験	50%	日本語の発音・演奏表現の追求と内容考察
参考書・参考資料等			平常点（態度・行動観察）	50%	歌詞、詩の内容の予習・聴講時の取り組み

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG52E29 教育課題研究Ⅰ	岩山　惠美子・馬込　勇・阿瀉濱　健一	複数	２単位	音楽専攻科 専攻科生	前期	選択必修	必修			ＡＢＣＥ

授業のテーマ及び到達目標

「様々なジャンルの音楽の特質や当面する教育上の課題について理解を深めよう」

楽曲についてさまざまな視点から調べ、討議することを通して、楽曲の特徴を自分なりにまとめることができる。
グローバル化の進展や絶え間ない技術革新に伴う教育課題について、調査・研究・討議し、自分の考えをもつことができる。

授業の概要

多様な時代やジャンルの音楽について音楽的特徴だけでなく、時代背景や地域性、他の芸術や科学との関わりなどのさまざまな側面からも調べ、理解を深める。
これからの教育のあり方について、持続可能な社会の担い手の育成という視点からとらえ、教育者としてのありようを自分なりに考える。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	ガイダンスとテーマ設定 （岩山　惠美子・馬込　勇）	シラバスを読んでおく	テーマに沿った課題を自分なりに選ぶ
2	チャイコフスキー心の旅 情報番組の視聴と討議 （馬込　勇）	チャイコフスキーについて調べておく	テーマの調査・研究の方法をまとめる
3	宗教と教会音楽 （馬込　勇）	課題について調べておく	宗教による音楽的発展をまとめる
4	貴族と宮廷音楽 （馬込　勇）	課題について調べておく	王宮中心の楽曲をまとめる
5	富裕商人とサロン音楽 （馬込　勇）	課題について調べておく	市民のための楽曲展開をまとめる
6	令和4年度吹奏楽コンクール課題曲の研究 （馬込　勇）	課題曲を選択してアナリーゼしておく	課題曲の指導法をまとめる
7	令和4年度吹奏楽コンクール課題曲対策 （馬込　勇）	指導法をシュミレーションしておく	演奏効果をまとめる
8	吹奏楽コンクール自由曲の選曲 （馬込　勇）	課題について調べておく	選曲の設定方法をまとめる
9	課題追求とまとめ方 （岩山　惠美子）	課題追求の計画を立てておく	計画を修正する
10	世界の音楽（アジア・アフリカの音楽） （岩山　惠美子）	該当する教材(楽曲）について調べておく	アジア・アフリカの音楽の特徴をまとめる
11	世界の音楽（南米の音楽） （岩山　惠美子）	該当する教材(楽曲）について調べておく	南米の音楽の特徴をまとめる
12	２０３０年問題を考える （岩山　惠美子）	論点整理のp1～p7を読んでおく	社会の変化と教育課題についてまとめる
13	学生が設定した課題について発表と討議 〔例：授業のユニバーサルデザイン化〕 （岩山　惠美子）	ユニバーサルデザインについて調べておく	授業改善の視点についてまとめる
14	学生が設定した課題について発表と討議 〔例：情報化〕 （岩山　惠美子）	情報化と教育課題について調べ、発表準備をしておく	情報化の進展の功罪についてまとめる
15	学生が設定した課題について発表と討議 〔例：ＩＣＴ活用〕 （岩山　惠美子）	ＩＣＴの具体的活用策を考えておく	情報化に対応できる教師の力量についてまとめる

教科書・テキスト等	
参考書・参考資料等	学生が作成した発表資料,適宜、資料を配付

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
小論文	50%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
課題検討への取り組み	50%	理解度、事前事後学修の内容や意見の深まり

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG52E30 教育課題研究Ⅱ	岩山　惠美子・馬込　勇・阿瀉濱　健一	複数	２単位	音楽専攻科 専攻科生	後期	選択必修	必修			ＡＢＣＥ

授業のテーマ及び到達目標

「楽曲分析力を高め、教育課題への理解を深めよう」
各時代の代表的作品をアナリーゼしたことや自ら設定した教育課題について調査研究したことを発表したり、意見交換したりすることを通して、分析力を高め、課題についての理解を深める。

授業の概要

様々な教育課題の中から追求課題を設定し、調査研究した内容を検討し合うことを通して、教育課題についての知見を深めていく。
音楽史上の各時代の代表的な作品を分析することを通して、音楽を深く捉え、指導に活かす方策を探る。

授　業　計　画

回	学修内容	事前学修	事後学修
1	研究テーマの設定 （岩山　惠美子・馬込　勇）	シラバスを読んでおく	選択したテーマの研究計画を作成する
2	歴史的パンデミック下の楽曲 （馬込　勇）	パンデミックの歴史を調べておく	楽曲を１曲選び分析しまとめる
3	イタリアとドイツのバロック音楽 （馬込　勇）	課題について調べておく	楽曲を選び分析しまとめる
4	マンハイム楽派と古典音楽 （馬込　勇）	課題について調べておく	作品の特徴についてまとめる
5	ドイツロマン派の２つの流れ シューマン～ブラームス ワーグナー～ブルックナー （馬込　勇）	課題について調べておく	ロマン派の作品についてまとめる
6	中国音楽と雅楽 「国境なき音楽」の鑑賞と協議 （馬込　勇）	中国音楽について調べておく	歴史的流れをまとめる
7	日本の現代音楽 「四大ファゴット協奏曲の夕べ」の 鑑賞と協議 （馬込　勇）	邦人現代作曲家について調べておく	日本の現代音楽の特徴をまとめる
8	学生が選択した楽曲についての 鑑賞と研究発表・討議 （馬込　勇）	選曲した楽曲を分析しておく	選択した楽曲の音楽的特徴をまとめる
9	教育課題について （岩山　惠美子）	様々な情報から教育に関する課題を探し、まとめておく	追求したい課題を選び、計画を立てる
10	家庭教育について （岩山　惠美子）	家庭教育について調べておく	家庭教育についての自分の考えをまとめる
11	学生が選択した教育課題についての研究発表とディスカッション 【心の健康】　（岩山　惠美子）	【心の健康】について調べ発表準備をしておく	具体的な取り組み策を考えまとめる
12	学生が選択した教育課題についての研究発表とディスカッション 【危機管理】　（岩山　惠美子）	【危機管理】について調べ発表準備をしておく	具体的な取り組み策を考えまとめる
13	学生が選択した教育課題についての研究発表とディスカッション 【地域連携】　（岩山　惠美子）	【地域連携】について調べ発表準備をしておく	具体的な取り組み策を考えまとめる
14	学生が選択した教育課題についての研究発表とディスカッション 【指導力向上】　（岩山　惠美子）	【指導力向上】について調べ発表準備をしておく	具体的な取り組み策を考えまとめる
15	私の教育ヴィジョン （岩山　惠美子）	自分の教育ヴィジョンの発表準備をしておく	自分の教育ビジョンを見直し、再考する。

教科書・テキスト等	
参考書・参考資料等	学生が作成した発表資料,適宜、資料を配付

成績評価基準

評価方法	割合(%)	評価のポイント
小論文	50%	内容充実、論旨の一貫性、自分の考え
課題検討の取り組み	50%	理解度、事前事後学修の内容や意見の深まり

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG52E32 修了研究（声楽）	桑原　理恵　他	クラス分け	８単位	音楽専攻科 専攻科生	前期～後期	必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画
楽曲を様々な角度から捉え理解を深め、演奏表現の向上に結びつける。また、自分が習得した技術や表現について文字や言葉で伝えることを修得する	【学修内容】 １．これまでに学修してきたレパートリーや演奏能力などをもとに指導教員と年間の学修計画を立てる ２．作品の概要、時代背景等を探る ３．作曲家や楽曲様式について調べる ４．作品の演奏技術や表現を追求する ５．卒業試験曲（日本歌曲を含む）について考察したことを演奏レポートとして作成、提出する ［形　　式］　形式は自由。１ページを1200字とした場合、３～１０ページを目安とする。（ページを明記のこと） ［提出期限］　２０２４年　1月　２６日（金）１７時３０分 ［提出窓口］　教務課窓口　　＊必ず本人が提出すること。
授業の概要 音楽実技研究（声楽）で取り組む楽曲に関しての研究を行う。自分が演奏する作品の歴史、作曲家、作詞者、演奏技法などの研究を行う。また、様々なジャンルの芸術に触れ豊かな感性を育てる。	

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	楽譜等を授業時に提示		卒業試験曲の演奏レポート	30%	内容の深さと充実、論旨の一貫性等
			口頭試問	30%	研究動機・主体的取り組みの内容等
参考書・参考資料等			特別講座への取り組み	10%	主体性、積極性、追求性
			実技試験	30%	演奏内容

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG52E32 修了研究（ピアノ）	眞鍋　協子　他	クラス分け	８単位	音楽専攻科 専攻科生	前期～後期	必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画
音楽学科において研究した演奏技術と音楽的表現をもとに、さらに高度な技術力、洞察力をつける。音楽作品を通して、深い芸術性と豊かな人間性を養う。	〔授業計画〕 これまでに学んできた実技の技術、理論に加えて、ステージで演奏するために更に深く音楽を追求する。 演奏法と楽曲の研究の両方から更なる研鑽を積むことを目的に、修了試験のために選んだ楽曲について、 作曲家の全体像にも触れ、作品の背景、様式上の特性を考慮しつつ、より完成度の高い演奏と研究を目指す。 成績評価 １、実技試験（学内演奏・修了演奏の公開） ２、修了研究で取り組む楽曲について次の項目を研究し、演奏レポートにまとめる。 ①作曲家について　②作品成立の時代背景　③楽曲様式　④エディション研究 ⑤演奏技術の研究 ［内　　容］　修了試験曲に関する作曲家について、作品成立の時代背景、楽曲様式、エディション研究 演奏技術の研究を行う。 ［形　　式］　形式は自由。１ページを1200字とした場合、３～１０ページを目安とする。 ［提出期限］　該当年度の１月３１日　１７時３０分（祝日の場合は翌週の月曜日） ［提出窓口］　教務課窓口　　＊必ず本人が提出すること ３、修了試験（音楽実技研究Ⅱ）で演奏した曲の内容についてロ頭試験を行う。 ４、学内、学外での演奏会、講座等の鑑賞や出演で評価する。
授業の概要 修了年次に選んだテーマに沿って楽曲を選択し、作曲家の作品の歴史、様式、演奏技法等の研究を行う。専攻科において修得した技術と奏法を舞台において発表する。	

		成績評価基準	評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	指導教員と相談の上、任意に選曲		実技試験	30%	作曲家の作品の演奏技法と表現力
			演奏曲についての内容	30%	作曲家の作品の歴史、様式、演奏技法等
参考書・参考資料等			口頭試問	30%	修了試験の演奏曲についての質問に答える
			特別講座への取り組み	10%	主体性、積極性、追求性

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG52E32 修了研究（管弦打）	馬込　勇・柏尾 剛徳　他	クラス分け	８単位	音楽専攻科 専攻科生	前期～後期	必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画
音楽表現を学ぶ者にとって、個々の楽器演奏の修得のみでは不完全な表現となってしまう。それを補うためにもオペラ・ミュージカル・映画等、多方面の芸術を実際に見聞することにより、深い芸術性を養うことができるようになる。	１.前期は学内演奏会、後期は卒業試験として公開試験となるので、それぞれに向けた選曲および、楽曲研究をする ２.専攻楽器のレパートリーの研究をする ※３.普段の実技とは違った角度でアナリーゼを中心とし、楽曲の時代背景や作曲された経緯その他を研究し、レポートを提出する ４.その他、管弦打楽器の知識を深め、将来学校現場等で吹奏楽や管弦楽を指導することも想定し、様々な角度から研究を行う ※３.のレポートについて ●形式：自由形式 ●サイズ：Ａ４ ●文字数：１ページ１２００字程度 ●枚数：３枚以上１０枚以内 ●提出窓口：教務課 ●提出期限：別途定める
授業の概要 自らが選んだ楽曲に対し、作曲家自身の作品成立史・時代様式・技法等の研究を前提とする。１年間を通して修得した技能・知識を駆使し、一演奏家として舞台において発表することを意味する。学内演奏会・修了試験が課される。	

			評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	担当教員から指示	成績評価基準	課題／レポート(後期)	30%	上記３.についてのレポート内容
			口頭試問（後期）	30%	修了試験の演奏曲についての質問に答える
参考書・参考資料等			特別講座への取り組み	10%	主体性・積極性・探求心
			実技試験	30%	演奏内容

科　目　名	担 当 者	担当形態	単位数	対象学生	開講時期	卒業要件	教職課程	保育士	音楽療法	ディプロマポリシー
MG52E32 修了研究(作曲)	出田　敬三　他	複数	４単位	音楽専攻科 専攻科生	前期～後期	必修				ＡＢＣＤＥＦ

授業のテーマ及び到達目標	授　業　計　画
音楽学科において研究した創作、表現力に加え、更に独創的で個性ある質の高い芸術作品を創作し、実際に音を出して再現、社会的に実践できる力をつける。 作品を通じて、奏者や聴衆と音楽的コミュニケーションを行うことで、自己の成長と音楽の美しさを追求し、地域社会の音楽文化の発展に寄与する。	●以下の10のテーマを通年にわたって研究する。 ① 和声学 ② 対位法 ③ 管弦楽法 ④ 楽曲アナリーゼ ⑤ コード進行法 ⑥ 音楽形式 ⑦ 編曲 ⑧ スコアリーディング ⑨ 鑑賞 ⑩ 即興演奏 ●作曲実習 前期公開試験、後期修了試験
授業の概要 声楽曲（合唱曲を含む）、器楽曲（独奏、室内楽、オーケストラ等）の様々なジャンルの編成や楽器等とスタイルにより、これまでに習得した様々な作曲技法やイメージを生かし、独創的で個性ある芸術作品を創作する。また、それを実際に音を出して再現する。	

			評価方法	割合(%)	評価のポイント
教科書・テキスト等	指導教員より指示	成績評価基準	定期試験	80%	自作曲の質、表現の完成度、楽譜提出
			平常点	20%	積極的な取り組み、演奏会への出演・鑑賞
参考書・参考資料等					